

教育・研究業績書

講座名 越谷病院外科(消化器・一般)		
＜教員の紹介＞		
教授 山口 真彦	講師 松本 匡史	
准教授 中村 哲郎		
講師 奥山 隆		
講師 小島 誠人		
講師 菅又 嘉剛		
<b>I 教育活動</b>		
<b>教育実践上の主な業績</b>	<b>年月</b>	<b>概要</b>
<b>① 教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）</b>		
1. 実地医家を目指した授業内容	2002年4月～現在	作成したシラバスに従って、疾患項目を網羅的に講義するが、その際、症例を呈示して主訴、病歴、画像診断などの紹介とともに、手術その他の治療内容の解説、さらにその後の経過（死亡を含む）なども症例のエピソードとともに提示し、疾患の実際を症例を通してより具体的に解説することにより、疾患の重要性を肌で感じて貰い、将来医師として疾患に当たることを念頭に授業を行っている。
2. 参加型のBSL	2002年4月～現在	スタッフとともに診療（手術、回診、病棟処置、検査など）に参加して貰って多数の患者さんと接することにより、より具体的に医療の実際を経験することで医師になることへのモチベーションを高めるとともに、疾患への理解を深めるよう指導教育している。
3. 基本的技術修得の研修医教育	2004年4月～現在	外科における病棟処置は、末梢静脈路の確保から始まり、中心静脈穿刺、さらに24時間の輸液管理、胸水・腹水穿刺、経鼻胃管・イレウス管挿入、膀胱バルーンカテーテル留置など全身管理にまつわる殆どの処置を行うが、研修医の修得すべき基本手技すべてが網羅でき、繰り返し経験できるよう指導教育している。また乳腺手術では皮膚の埋没縫合などコスメティックな配慮を要する縫合手技なども上達できるほどに経験できるよう機会を提供している。

<b>② 作成した教科書、教材、参考書</b>		
<b>③ 教育方法・教育実践に関する発表、講演・その他教育活動上特記すべき事項</b>		

## 教育・研究業績書

診療科名	職名	氏名	
越谷病院外科（消化器・一般）	教授	山口 真彦	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1998年 11月～現在	日本肝胆膵外科学会評議員		
1999年 5月～現在	日本血管外科学会評議員		
2004年 2月～現在	日本外科学会代議員		
2005年 7月～現在	日本消化器外科学会評議員		
2006年 1月～現在	日本消化器病学会評議員		
2007年 7月～現在	日本癌治療学会評議員		
2008年 1月～現在	日本臨床外科学会評議員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
【原 著】			
欧文			
1. <u>Yamaguchi M</u> , Hirose K, Hirai N: HER2 was highly immunostained on carcinoid tumors in intestinal tracts, but not in stomach. Surg Today 37:270-271, 2007.			
和文			
1. <u>山口真彦</u> , 廣瀬清貴, 中村哲郎: 膵嚢胞性疾患に対する脾臓温存膵体尾部切除. 手術 58: 695-698, 2004.			
2. 小島誠人, 瀧澤淳, 井上克彦, 阿部聡子, <u>山口真彦</u> : 抗エストロゲン剤（クエン酸トレミフェン）脂肪代謝に及ぼす影響. 乳癌の臨床 19: 263-267, 2004.			
3. 中島あつ子, 柴崎光衛, 谷直人, 森三樹雄, <u>山口真彦</u> : 栄養指標蛋白としてのトランスフェリン、トランスサイレチンおよびレチノール結合蛋白. 獨協医学会雑誌 32: 21-28, 2005.			
4. 小林和弘, 奥山隆, 中村哲郎, <u>山口真彦</u> : 進行結腸癌における c-MET (hepatocyte growth factor receptor) 発現の術後予後因子としての意義. 日本消化器外科学会雑誌 39: 23-30, 2006.			
5. <u>山口真彦</u> , 廣瀬清貴, 中村哲郎, 奥山隆: 胆嚢癌における HER2 発現の検討. 日本臨床外科学会雑誌 67:1199-1202, 2006.			
6. 中村哲郎, 高橋修平, 石橋正樹, <u>山口真彦</u> : 胸部食道癌根治術周術期管理における好中球エラスターゼ阻害剤の有効性の検討—特に手術開始時からの投与における効果について—. 臨床と研究 83:169-175, 2006.			
7. <u>山口真彦</u> , 石橋正樹, 菅又嘉剛, 須郷慶一, 泉里豪俊, 中村哲郎: 脾動・静脈切除を伴う脾温存膵体尾部切除. 手術 60:2003-2007, 2006.			
8. <u>山口真彦</u> , 中村哲郎, 熊田馨: 消化器外科における汎用自家静脈採取の基本手技. 消化器外科 30:397-406, 2007.			

## 【症例報告】

欧文

1. Yamaguchi M, Matsumoto T, Tate G, Higuchi T: Secondary resistance to imatinib mesylate in a case of unresectable duodenal GIST without mutations in exon 9, 11, 13, or 17 of c-kit proto-oncogene. J Gastroenterol 39: 904-905, 2004.
2. Yamaguchi M, Yamamura Y, Okuyama T, Kojima M, Nakamura T: Thrombophlebitis in central vein caused by indwelling catheter for total parenteral nutrition: A case report and venous angiographic study of 27 cases with central vein catheterization. Dokkyo J Med Sci 32: 57-61, 2005.
3. Yamaguchi M: Solid serous adenoma of the pancreas: a solid variant of serous cystadenoma or a separate disease entity. J Gastroenterol 41:178-179, 2006.
4. Yamaguchi M, Izumisato T, Narahashi T, Sugo Y, Takizawa J, Nakamura T: A case of retroperitoneal schwannoma difficult to diagnose preoperatively. Dokkyo J Med Sci 33:143-146, 2006.

和文

1. 高橋修平, 中村哲郎, 山口真彦: 胸腔鏡下にて切除し得た食道粘膜下腫瘍の1症例. 手術 58: 261-264, 2004.
2. 石橋正樹, 高瀬康雄, 山口真彦: 巨大ダグラス窩膿瘍を形成した穿孔性虫垂炎の1例. 獨協医学会雑誌 31: 235-238, 2004.
3. 高橋修平, 中村哲郎, 山口真彦, 菅野渉平: 異時性小腸転移をきたした胃噴門部癌の1例. 臨床外科 60: 267-270, 2005.
4. 高橋修平, 中村哲郎, 石橋正樹, 山口真彦: 根治切除可能であった完全内臓逆位症に食道癌を伴った1例. 外科 67: 345-348, 2005.
5. 高橋修平, 中村哲郎, 山口真彦: 食道癌術後に横隔膜裂孔ヘルニアを発症した1例. 手術 59: 545-547, 2005.
6. 松本匡史, 成原健太郎, 真田裕, 山口真彦: 歯科補綴物が核となり形成された真性腸石の1例. 日本臨床外科学会雑誌 67:2646-2649, 2006.

## 【総 説】

和文

1. 山口真彦, 小林和弘, 菅又嘉剛, 高瀬康男, 奥山隆: 特集 再手術一予防・適応・手術手技一術後胆汁瘻・biloma. 手術 59: 1495-1499, 2005.
2. 小島誠人, 瀧澤淳, 山口真彦: 乳癌. 獨協医学会雑誌 32: 183-187, 2005.

## 【その他】

教育・研究業績書

診療科名 越谷病院外科（消化器・一般）	職名 准教授	氏名 中村 哲郎	大学院の研究指導担当資格 有
------------------------	-----------	-------------	----------------

Ⅱ 学会等および社会における主な活動

1987年4月～現在	日本外科学会員
1987年4月～現在	日本消化器内視鏡学会員
1992年5月～現在	日本消化器外科学会員
1994年5月～現在	日本消化器病学会員
1998年9月～現在	日本臨床外科学会員
2003年6月～現在	日本内視鏡外科学会員
2006年5月～現在	日本癌治療学会員

Ⅲ 研究活動

【学位論文】

【著 書】

和文

1. 中村哲郎：クローン病、専門医を目指す CASE METHOD APPROACH 8. 消化器疾患改定第3版 日本医事新報社：2004.

【原 著】

和文

1. 山口真彦, 廣瀬清貴, 中村哲郎：膵嚢胞性疾患に対する脾臓温存膵体尾部切除. 手術 58: 695-698, 2004.
2. 小林和弘, 奥山隆, 中村哲郎, 山口真彦： 進行結腸癌における c-MET (hepatocyte growth factor receptor) 発現の術後予後因子としての意義. 日本消化器外科学会雑誌 39: 23-30, 2006.
3. 山口真彦, 廣瀬清貴, 中村哲郎, 奥山隆： 胆嚢癌における HER2 発現の検討. 日本臨床外科学会雑誌 67: 1199-1202, 2006.
4. 中村哲郎, 高橋修平, 石橋正樹, 山口真彦： 胸部食道癌根治術周術期管理における好中球エラスターゼ阻害剤の有効性の検討—特に手術開始時からの投与における効果について—. 臨床と研究 83: 169-175, 2006.
5. 山口真彦, 石橋正樹, 菅又嘉剛, 須郷慶一, 泉里豪俊, 中村哲郎： 脾動・静脈切除を伴う脾温存膵体尾部切除. 手術 60: 2003-2007, 2006.
6. 山口真彦, 中村哲郎, 熊田馨： 消化器外科における汎用自家静脈採取の基本手技. 消化器外科 30: 397-406, 2007.

【症例報告】

欧文

1. Yamaguchi M, Yamamura Y, Okuyama T, Kojima M, Nakamura T: Thrombophlebitis in central vein caused by indwelling catheter for total parenteral nutrition: A case report and venous angiographic study of 27 cases with central vein catheterization. Dokkyo J Med Sci 32: 57-61, 2005.

2. Yamaguchi M, Yamamura Y, Okuyama T, Kojima M, Nakamura T: Thrombophlebitis in central vein caused by indwelling catheter for total parenteral nutrition: A case report and venous angiographic study of 27 cases with central vein catheterization. Dokkyo J Med Sci 32: 57-61, 2005.
3. Yamaguchi M, Izumisato T, Narahashi T, Sugo Y, Takizawa J, Nakamura T: A case of retroperitoneal schwannoma difficult to diagnose preoperatively. Dokkyo J Med Sci 33:143-146, 2006.

和文

1. 高橋修平, 中村哲郎, 山口真彦: 胸腔鏡下にて切除し得た食道粘膜下腫瘍の1症例. 手術 58: 261-264, 2004.
2. 高橋修平, 中村哲郎, 山口真彦, 菅野渉平: 異時性小腸転移をきたした胃噴門部癌の1例. 臨床外科 60: 267-270, 2005.
3. 高橋修平, 中村哲郎, 石橋正樹, 山口真彦: 根治切除可能であった完全内臓逆位症に食道癌を伴った1例. 外科 67: 345-348, 2005.
4. 高橋修平, 中村哲郎, 山口真彦: 食道癌術後に横隔膜裂孔ヘルニアを発症した1例. 手術 59: 545-547, 2005.

#### 【総 説】

和文

1. 中村哲郎: 外科領域における術後感染症とその対策 (SSI を中心に). 獨協医学会 31: 261-266, 2004.

#### 【そ の 他】

## 教育・研究業績書

診療科名	職名	氏名	
越谷病院外科（消化器・一般）	講師	奥山 隆	大学院の研究指導担当資格 無
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1994年7月～現在	日本外科学会員		
1994年11月～現在	日本消化器外科学会員		
1996年5月～現在	日本大腸肛門病学会員		
1996年8月～現在	日本臨床外科学会員		
2006年4月～現在	日本癌治療学会員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
【原 著】			
和文			
1. 小林和弘, <u>奥山隆</u> , 中村哲郎, 山口真彦: 進行結腸癌における c-MET (hepatocyte growth factor receptor) 発現の術後予後因子としての意義. 日本消化器外科学会雑誌 39: 23-30, 2006.			
2. 山口真彦, 廣瀬清貴, 中村哲郎, <u>奥山隆</u> : 胆嚢癌における HER2 発現の検討. 日本臨床外科学会雑誌 67: 1199-1202, 2006.			
【症例報告】			
欧文			
1. Yamaguchi M, Yamamura Y, <u>Okuyama T</u> , Kojima M, Nakamura T: Thrombophlebitis in central vein caused by indwelling catheter for total parenteral nutrition: A case report and venous angiographic study of 27 cases with central vein catheterization. Dokkyo J Med Sci 32: 57-61, 2005.			
【総 説】			
和文			
1. <u>奥山隆</u> , 川又均, 山口真彦, 藤盛孝博: micrometastasis の臨床的意義はなにか? Modern Physician 24: 64-68, 2004.			
2. <u>奥山隆</u> , 藤井茂彦, 喜多嶋和晃, 武田純, 堀宏成, 富永圭一, 市川一仁, 寺本忠久, 小野祐子, 大蔵康男, 井村穰二, 川又均, 山口真彦, 藤盛孝博: 第2部 診断への応用と展望 A. 腫瘍 6. 大腸癌における微少転移診断. 病理と臨床 22: 137-140, 2004.			
3. 山口真彦, 小林和弘, 菅又嘉剛, 高瀬康男, <u>奥山隆</u> : 特集 再手術—予防・適応・手術手技—術後胆汁瘻・biloma. 手術 59: 1495-1499, 2005.			
【その他】			

教育・研究業績書

診療科名	職名	氏名	
越谷病院外科（消化器・一般）	講師	小島 誠人	大学院の研究指導担当資格 無
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1990年7月～現在	日本外科学会員		
1990年7月～現在	日本消化器外科学会員		
1996年6月～現在	日本乳癌学会評議員		
1997年5月～現在	日本外科系連合学会員		
1997年9月～現在	日本臨床外科学会員		
1998年1月～現在	日本消化器病学会員		
2006年5月～現在	日本癌治療学会員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
【原 著】			
和文			
1. <u>小島誠人</u> , 瀧澤淳, 井上克彦, 阿部聡子, 山口真彦: 抗エストロゲン剤（クエン酸トレミフェン）脂肪代謝に及ぼす影響. 乳癌の臨床 19: 263-267, 2004.			
【症例報告】			
欧文			
1. Yamaguchi M, Yamamura Y, Okuyama T, <u>Kojima M</u> , Nakamura T: Thrombophlebitis in central vein caused by indwelling catheter for total parenteral nutrition: A case report and venous angiographic study of 27 cases with central vein catheterization. Dokkyo J Med Sci 32: 57-61, 2005.			
【総 説】			
和文			
1. <u>小島誠人</u> , 瀧澤淳, 山口真彦: 乳癌. 獨協医学会雑誌 32: 183-187, 2005.			
【そ の 他】			

教育・研究業績書

診療科名	職名	氏名	
越谷病院外科（消化器・一般）	講師	菅又 嘉剛	大学院の研究指導担当資格 無
<b>Ⅱ 学会等および社会における主な活動</b>			
1995年8月～現在	日本外科学会員		
1995年9月～現在	日本消化器外科学会員		
1997年11月～現在	日本臨床外科学会員		
1998年8月～現在	日本大腸肛門病学会員		
2000年5月～現在	日本消化器内視鏡学会員		
2003年12月～現在	日本麻酔科学会員		
2006年4月～現在	日本癌治療学会員		
<b>Ⅲ 研究活動</b>			
【学位論文】			
【著 書】			
【原 著】			
和文			
1. 山口真彦, 石橋正樹, <u>菅又嘉剛</u> , 須郷慶一, 泉里豪俊, 中村哲郎: 脾動・静脈切除を伴う脾温存腺体尾部切除. 手術 60: 2003-2007, 2006.			
【症例報告】			
【総 説】			
和文			
1. 山口真彦, 小林和弘, <u>菅又嘉剛</u> , 高瀬康男, 奥山隆: 特集 再手術一予防・適応・手術手技一術後胆汁瘻・biloma. 手術 59: 1495-1499, 2005.			
【そ の 他】			

教育・研究業績書

診療科名	職名	氏名	
越谷病院外科（消化器・一般）	講師	松本 匡史	大学院の研究指導担当資格 無
<b>Ⅱ 学会等および社会における主な活動</b>			
1994年 6月～現在 1994年 6月～現在 1994年 7月～現在 1995年 3月～現在 1997年 1月～現在 1998年 10月～現在 1999年 11月～現在 2000年 4月～現在 2000年 4月～現在 2002年 4月～現在 2002年 10月～現在 2004年 7月～現在 2008年 3月～現在	日本消化器内視鏡学会員 日本消化器内視鏡学会員 日本外科学会員 日本消化器外科学会員 日本癌治療学会員 日本消化器病学会員 日本臨床外科学会員 日本外科感染症研究会員 日本肝胆膵外科学会員 日本胃癌学会員 日本大腸肛門病学会員 日本内視鏡外科学会員 日本脈管学会員		
<b>Ⅲ 研究活動</b>			
<p>【学位論文】</p> <p>【著 書】</p> <p>【原 著】</p> <p>欧文</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Midorikawa T, Kikuchi H, Ishibashi K, Saito M, Hatakeyama T, Kadokura S, <u>Matsumoto T</u>, Miyakawa K, Maezawa K, Uemichi O, Izuno H, Aita K, Nemoto H, Nagasaki H, Yagi H: Microwave coagulation therapy for a liver tumor involving the root of the left hepatic vein of the residual liver after extended right hepatectomy. <i>Hepatogastroenterology</i> 51: 1148-1150, 2004.</li> <li><u>Matsumoto T</u>, Efron PA, Tsujimoto H, Tschoeke SK, Ungaro R, Fujita S, Foley DP, Hemming A, Moldawer LL: Splenic transposition is superior to caudal shunt as a model of murine total hepatic ischemia. <i>Lab Invest</i> 85: 90-98, 2005.</li> <li><u>Matsumoto T</u>, O'Malley K, Efron PA, Fujita S, Moldawer LL, Hemming AW, Foley. DP: Interleukin-6 protects the liver from reperfusion injury during ischemic preconditioning. (oral presentation). <i>Journal of the american college of surgeons</i> 201: 12, 2005.</li> <li>Scumpia PO, McAuliffe PF, O'Malley KA, Ungaro R, Uchida T, <u>Matsumoto T</u>, Remick DG, Clare-Salzler MJ, Moldawer LL, Efron PA: CD11c+ dendritic cells are required for survival in murine polymicrobial sepsis. <i>J Immunol</i> 175: 3282-3286, 2005.</li> <li>Tsujimoto H, Uchida T, Efron PA, Scumpia PO, Verma A, <u>Matsumoto T</u>, Tschoeke SK, Ungaro RF, Ono S, Seki</li> </ol>			

- S, Clare-Salzler MJ, Baker HV, Mochizuki H, Ramphal R, Moldawer LL: Flagellin enhances NK cell proliferation and activation directly and through dendritic cell-NK cell interactions. J Leukoc Biol 78: 888-897, 2005.
6. Matsumoto T, O'Malley K, Efron PA, Burger C, McAuliffe PF, Scumpia PO, Uchida T, Tschoeke SK, Fujita S, Moldawer LL, Hemming AW, Foley DP: Interleukin-6 and STAT3 protect the liver from hepatic ischemia and reperfusion injury during ischemic preconditioning. Surgery 140: 793-802, 2006.
  7. Matsumoto T, Sanada Y: Increased IL-6/STAT3 activation in hepatic ischemic preconditioning. Eur Surg Res G517C0161: 59-62, 2006.
  8. Tsujimoto H, Efron PA, Matsumoto T, Ungaro RF, Abouhamze A, Ono S, Mochizuki H, Moldawer LL: Maturation of murine bone marrow-derived dendritic cells with poly(I:C) produces altered TLR-9 expression and response to CpG DNA. Immunol Lett 107: 155-162, 2006.
  9. Efron PA, Matsumoto T, McAuliffe PF, Scumpia P, Ungaro R, Fujita S, Moldawer LL, Foley D, Hemming AW : Major Hepatectomy Induces Phenotypic Changes in Circulating Dendritic Cells and Monocytes. J Clin Immunol 2009.

### 【症例報告】

欧文

1. Yamaguchi M, Matsumoto T, Tate G, Higuchi T: Secondary resistance to imatinib mesylate in a case of unresectable duodenal GIST without mutations in exon 9, 11, 13, or 17 of c-kit proto-oncogene. J Gastroenterol 39: 904-905, 2004.
2. Mekeel KL, Hemming AW, Reed AI, Matsumoto T, Fujita S, Schain DC, Nelson DR, Dixon LR, Fujikawa T: Hepatic mucormycosis in a renal transplant recipient. Transplantation 79:1636, 2005.

和文

3. 根本洋, 石橋一慶, 吉澤康男, 松原猛人, 曾田均, 後藤哲宏, 水上博喜, 相田邦俊, 斎藤充生, 松本匡史, 笹屋昌示, 真田裕, 嶋田顕, 佐藤温: 胃癌症例に対する術前化学療法の胃脾合併切除後感染症に及ぼす影響. 日本外科感染症学会雑誌 3: 241-253, 2006.
4. 松本匡史, 葛目正央, 成原健太郎, 真田裕, 山口真彦: 歯科補綴物が核となり形成された真性腸石の1例. 日本臨床外科学会雑誌 67:2646-2649, 2006.
5. 松本匡史, 上道治, 石橋一慶, 梅本岳宏, 日比健志, 吉澤康男, 玄秀楯, 真田裕: 完全翻転した虫垂を先進部とした成人腸重積症の1例. 日本消化器外科学会雑誌 40: 1722-1726, 2007.
6. 梅本 岳, 松本 匡史, 横溝 和: A case of appendiceal cancer occurred in persistent appendices. Journal of the Showa Medical Association 68:71-76, 2008

### 【総 説】

和文

1. 根本洋, 吉澤康男, 日比健志, 笹屋昌示, 木川岳, 石橋一慶, 松本匡史, 斎藤充生, 上道治, 前沢浩司, 後藤哲宏, 真田裕, 田中広紀: 消化器癌(食道・胃・大腸)がん化学療法に対する私たちの取り組み. 医薬の門 47:27-35, 2007.

### 【そ の 他】